

令和3年度 事業所別事業報告

事業所 【 法人本部 】

I 令和3年度の状況

第五期3ヵ年計画が策定され、「計画」を基に1年目がスタートした。今年度も新型コロナウイルス感染症対策として利用者及び職員の感染を防ぐため施設外の研修や行事、様々な交流は中止や自粛となり、利用者の面会制限やボランティア等の受け入れも中止することになったが、利用者及び職員の安全を確保しながら継続的に経営ができるよう、基本的な感染症対策はもとより「利用者の利用基準」と「職員の出勤基準」を作成し感染拡大防止に努め事業実施した。

各事業の経営状況としては、新型コロナウイルス感染症の対応・対策で、特に通所系の事業（デイサービス等）では、利用控えや県外者（感染拡大地域）との接触等で利用を中止される方もあり、また年末年始の大雪の影響等で営業中止した日もあり、利用者数及び収入が減少した。入所系の事業についても、入院や入退所が例年以上に増加しており、日頃の健康管理や稼働率向上が引き続き課題となっている。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|----------|--|--|
| サービス | ① コンプライアンス (法令遵守)の強化 | <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 鳥取県法人指導監査：なし 実地指導監査：ケアハウス及び賀茂保育園ともに指摘事項なし 虐待及びハラスメントの防止に努めた。 9月全体会（研修）において研修実施し、相談窓口等を職員に周知した。 |
| | ② 非常時における安全 確保・対策 | <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練回数 三朝温泉三喜苑 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 夜間通報訓練 2回実施した。（そのうち1回は抜き打ちで実施） グループホーム仁の里 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 三喜苑西郷（通所介護） 避難訓練 1回実施した。（日中想定1回） 防災研修を実施した。（8月24日全体会（研修））67名参加した。 （欠席者には伝達講習を実施。） 職員の労働災害：業務災害3件（右まぶた切創・背中の痛み・左足打撲） （令和元年度：4件／令和2年度：1件） |
| | ③ 苦情の解決・リスク の管理（マネジメント：管理・分析・改善・成果を引き出す） | <ul style="list-style-type: none"> 苦情相談受付件数 7件 毎月苦情解決委員会を開催し、苦情、相談、質問について内容を確認し、対応策や解決結果について確認した。 苦情解決第三者委員会を開催し、発生した苦情解決状況等を説明及び意見聴取した。（年間2回／4月、9月実施） 職員状況 採用13名・退職19名 労働者不足の対策 公共職業安定所（ハローワーク）の活用、民間人材紹介会社への情報収集・発信、各種就職フェアへの参加などを実施した。 （採用経路：ホームページからの応募や知り合いの紹介など、ハローワークからの紹介で計11名採用。民間人材紹介会社からの紹介で計2名採用。） 育児休業中の職員への情報提供や情報収集にも努め、スムーズな職場復帰へ確認・調整した。（育児休業中又は復帰後に退職した者：なし） 新型コロナウイルス感染症対策を整備し感染予防に努めた。 （マニュアルの見直し、中部地区の発生状況（警報）に合わせたボランティアの受入と、家族の面会を実施した。利用者・職員の新型コロナウイルスワクチン集団接種（3回）を実施した。簡易式抗原検査キットを購入し、職員の同居家族の学校等から感染者が発生した場合で、家族が濃厚接触者としての扱いになった場合等の対応として、出勤前に感染状況の検査を実施した。） |
| 能力 開発 | ① 職員個々の資質向上 (研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実) | <ul style="list-style-type: none"> 各種研修会を毎月実施 全体会（毎月開催）：平均71名参加あり。（令和2年度：71名参加） 職員研修（年間4回）：平均24名参加あり。（令和2年度：26名参加） 施設外研修 延べ100名参加（令和2年度：延べ114名） 新人研修（年間2回）：対象者9名（令和2年度：12名） |

| | | | |
|------|---|---|--|
| 能力開発 | ① | 職員個々の資質向上 (研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実) | <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度実績(取得状況) 介護支援専門員更新研修 1名、主任介護支援専門員更新研修 1名、認知症介護実践者研修 2名、認知症介護実践リーダー研修 1名、認知症対応型サービス事業管理者研修 1名、喀痰吸引等研修指導看護師等研修 1名、鳥取県保育士等キャリアアップ研修専門分野別研修 6名(①乳児保育 1名、②幼児教育 1名、③障がい児保育 1名、④食育・アレルギー対応 1名、⑥保護者支援・子育て支援 1名、マネジメント研修 1名)が取得した。 施設内研修(新人研修・職員研修・全体会)については、アンケートを実施し研修の評価・振り返りを行った。 職員研修・全体会:新型コロナウイルス感染症対策をしながら開催した。(会場の分散やオンラインで、時間短縮で実施した。(30分)) 全体会の欠席者には、動画を活用し、後日伝達講習を実施した。 |
| | ② | 給与・働き方に関する規程の見直し(同一労働同一賃金への対応) | <ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革(賃金・待遇等)」を踏まえ役職員給与規程を改正し、令和3年4月1日から適用(支給)した。 年次有給休暇の確実な取得に向けた仕組みについて、新規採用者研修時の説明や衛生委員会、主任・リーダー会への情報提供、法人本部近況報告等により周知した。 鳥取県最低賃金改定に伴い、臨時警備員基本給を改正した。(10月分給与から適用/鳥取県最低賃金792円から821円に引き上げられた) 「介護職員処遇改善支援補助金(介護施設)」「保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業(保育所)」の補助金を活用し、役職員給与規程を改正した。(令和4年2月分給与から適用) |
| | ③ | 業務の見直しと効率化(ICT活用/業務手順の見直しと統一) | <ul style="list-style-type: none"> すべての介護保険事業において、介護記録システム及び記録と連動した請求システムを導入し、請求時の業務負担軽減に繋がった。今後も介護記録システムを研究・活用することで更に業務改善に繋げていく。 |
| 地域 | ① | ヒト:職員の派遣 (研修講師・介護教室など)/ボランティアの活用・見直し | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア受入人数 延べ33名。(令和2年度:85名) 新型コロナウイルス感染症対策により、中部地区の警報状況に応じて受入を中止した。 講師派遣(10回派遣)…三朝町主催 介護予防教室 4回 (令和2年度:9回) 三朝町社会福祉協議会主催 健康教室 6回 |
| | ② | モノ:非常時における避難(スペース有効利用)/情報開示・発信(HP・広報誌) | <ul style="list-style-type: none"> 情報公開(決算状況):ホームページ(HP)に情報を掲載(公表)した。(法人事務所(玄関)でも情報公開している。) 機関紙「太陽」年4回発行した。(103号~106号) 福生会ニュース(ホームページ上の名称)月平均69件情報発信した。(令和2年度:平均15件) 9月に賀茂保育園専用のホームページを開設。ほぼ毎日、クラス毎に生活の様子を掲載しており、前年度に比べ大幅に掲載件数が増えた。 外部の各居宅介護支援事業所等に、利用状況のご案内や施設における新型コロナウイルス感染症対策について情報発信した。 |
| | ③ | カネ:社会福祉充実残額の算定と計画 | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度における社会福祉充実残額は△349,920,000円のため、社会福祉充実計画の策定は不要ではあるが、公益的取組み(地域貢献)は実施した。 ボランティア受入、介護教室の開催、地域行事への参加 利用者負担軽減制度の実施:対象者1名 新型コロナウイルス感染症対策により中止した事業 福生会祭り、論語三代、地域交流会 認知症カフェ(わらわあ会)…年間6回開催し、延べ45名参加あり。 地域の新型コロナウイルス感染状況をみながら開催した。 |
| 業務 | ① | 支出管理の強化 (増税対応含む) | <ul style="list-style-type: none"> 月毎の収入や予算執行状況を所属長に報告し、収支状況等の情報共有を図った。 |
| | ② | 設備投資と計画(エコ・大型機器の入れ替え・計画) | <ul style="list-style-type: none"> 職員食堂、介護施設2階居室、ケアハウス共有部分廊下等にエアコン設備(老朽化に伴う交替) 三朝温泉三喜苑敷地内の一部のマンホール修繕とアスファルト舗装の実施 屋上非常用発電機と高圧受電設備(キュービクル)の外装補修と全面塗装を実施 本館屋上防水シート(一部)補修工事・消防設備(スプリンクラー)の修理 9月、10月に建物定期検査及び防火設備点検の実施。要是正項目あり、次年度以降に改善修理等実施予定 |
| | ③ | 法人本部の機能強化及び「組織」の見直し | <ul style="list-style-type: none"> 現況報告書(定期報告)の提出 内部監査機能(体制)のさらなる強化が必要 (3カ年計画:事業継続と発展するための事業収益向上(成長)を目指す) |

令和3年度 役員会等の開催・実施状況

| 日 付 | 会議名(開催時間) | 主な議案・内容 |
|------------|-----------------------|--|
| 令和3年5月12日 | 監査会 9:00～ | ○ 令和2年度事業の監査 |
| 令和3年5月30日 | 第97回理事会 9:00～ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○ 理事及び監事候補者の推薦について(重任) ○ 評議員の退任及び評議員選任候補者の推薦について(新任) ○ 評議員選任候補者の推薦について(重任) ○ 評議員選任・解任委員会の開催について ○ 評議員会の開催について ○ グループホーム仁の里 施設の長(管理者)交代について ○ 三喜苑居宅介護支援事業所 運営規程の一部改正について ○ 就業規則の一部改正について ○ 役職員給与規程の一部改正について ○ 職務執行状況について(報告) ○ 令和2年度 社会福祉充実残額について(報告) ○ 3カ年計画(第五期3カ年計画 2021.4.1～2024.3.31計画)(報告) ○ 軽費老人ホーム事務費(補助基準額)単価(報告) ○ 令和3年度 社会福祉法人福生会 組織図(報告) |
| 令和3年6月8日 | 第4回評議員選任・解任委員会 10:00～ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 評議員の退任について ○ 評議員の選任について |
| 令和3年6月18日 | 第77回評議員会 9:30～ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○ 理事及び監事の選任について ○ 令和2年度 社会福祉充実残額について(報告) ○ 評議員選任・解任委員会の結果について(報告) ○ 令和3年度 社会福祉法人福生会 組織図(報告) |
| 令和3年6月20日 | 第98回理事会 9:00～ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 理事長の選定について ○ 業務執行理事の選定について ○ 社会福祉法人福生会 運営規程の一部改正について <ul style="list-style-type: none"> ・ 三朝温泉三喜苑 介護老人福祉施設 運営規程 ・ 三朝温泉三喜苑 短期入所生活介護事業所 運営規程 ○ 社会福祉法人福生会 運営協議会 委員の選任について(報告) |
| 令和3年6月24日 | 第5回運営協議会 【書面開催】 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 福生会への意見聴取について ○ 令和2年度 各事業所 事業報告について ○ 令和3年度 各事業所 事業計画について |
| 令和3年11月21日 | 第99回理事会 9:00～ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度 各事業 追加補正予算について ○ 役職員給与規程の一部改正について ○ 令和3年12月支給分 勤勉手当の支給月数について ○ 『三喜苑』入所者の歯科疾患・口腔機能の健診および歯科介入の是非について(報告) ○ 職務執行状況について(報告) ○ 令和2年度指定管理業務評価結果通知書(賀茂保育園) ○ 令和3年度老人福祉施設指導監査の実施結果について(ケアハウス) ○ 第四期3カ年計画評価と第五期3カ年計画策定について(報告) |

| 日 付 | 会議名(開催時間) | 主な議案・内容 |
|-----------|---------------------|--|
| 令和4年3月13日 | 第100回理事会 9:00～ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度 各事業 追加補正予算について ○ 令和4年度 各事業 事業計画及び予算について ○ 令和4年度役員等賠償責任保険契約について ○ 役職員給与規程の一部改正について ○ 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について ○ 三喜苑居宅介護支援事業所 運営規程の一部改正について ○ 職務執行状況について(報告) ○ 令和3年度児童福祉行政指導監査の実施結果について(賀茂保育園)(報告) |
| 令和4年3月28日 | 第101回理事会 【決議の省略】 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 三朝町立賀茂保育園 園長(施設の長)交代について ○ 賀茂保育園 運営規程の一部改正について |

【令和3年度の苦情解決に関する委員会】

| 日 付 | 会議名(開催時間) | 主な議案・報告事項 |
|-----------|-----------------------|---|
| 令和3年4月14日 | 苦情解決 11:00～ 第三者委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度の苦情相談受付の報告 ○ 当事業所にて発生した苦情解決状況について説明及び意見聴取 |
| 令和3年9月29日 | 苦情解決 10:00～ 第三者委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 当事業所にて発生した苦情解決状況について説明及び意見聴取 |

* 令和3年度(年間)苦情相談受付件数:7件 (昨年度:6件)

- 苦情相談の内容
- ・ サービスの内容(職員の接遇)に関する事 …… 3件
 - ・ サービスの内容(サービスの質や量)に関する事 …… 2件
 - ・ その他(送迎に関する事) …… 2件

* 苦情内容については機関紙「太陽」で公表している

* その他「苦情解決委員会」を毎月開催。苦情・相談・質問等について、毎月検討している。

(構成メンバー:苦情解決責任者、苦情受付担当者等)

令和3年度 事業所別事業報告

事業所 【 介護老人福祉施設 】

I 令和3年度の状況

入退院を繰り返される利用者が数名あり、入院者の減少にはつながらなかった。今年度は退所者が31名と多く、その内23名の看取り介護を行った。施設での看取りを希望される方が増えており、早い段階で本人、家族の意向を把握することが重要になっている。また、退所者が多かったため、短い期間に退所が重なった月には、次の方が入所されるまでに日数がかかってしまうことがあり、収入減の要因の一つとなった。

新型コロナウイルス感染症予防の為、面会の制限もあり、家族に施設での様子をお伝えし、少しでも安心していただけるよう努めた。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|-----------------------------|---|
| サービス | ① 専門的な介護サービスの提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回認知症ケア会議を開催した。対応困難な事例やよい関わり方を検討し、情報共有を行った。 ・ 学習療法を継続実施した。(対象者6名 週3回) ・ 23名の看取りを実施した。コロナ禍でも、できる限り家族の面会を実施し、担当介護士や看護師から小まめに情報提供を行い、その都度本人、家族の意向に添うよう支援した。 ・ 今年度より、食事摂取量の低下を看取り期への判断材料とした。看取り期が長期にわたる利用者もあるが、家族、職員とも『最期』を意識できた。 ・ 月1回、歯科医師による勉強会を実施した。日本歯科医師会支援事業で口腔機能健診を受けた。口腔ケアについて歯科医師から、助言や指導を受けている。 |
| | ② 自立支援の介護の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 食物繊維やオリゴ糖を利用し、負担の少ない排便コントロールを行った。 ・ おむつからトイレでの排泄へ移行できた方もあれば、身体状況の変化によりパット交換対応になられた方もあった。 ・ 経口維持加算算定者22名 月1回多職種で食事観察を実施し、食事形態、提供量、環境等が適しているか確認した。 |
| | ③ 楽しみながら、安心、安全、満足の得られる生活の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理活動(毎月)や季節を感じられる献立(19回)を提供し喜ばれた。 ・ 季節ごとのドライブ、苑周辺での散歩や日光浴、ふるさと訪問、DVDを活用した回想法、各種行事を実施した。 ・ 虐待の芽チェックリストにより日々のケアの振り返りを行ったが、同じ項目が課題となることが多かった。 ・ 軽度の褥瘡や表皮剥離の発生はあったが、早期発見、対応によりすぐに改善した。座位時間や姿勢も発生要因であり、クッションや離床時間の調整を行った。看取りを行った利用者のほとんどに褥瘡の発生がなかった。 ・ 1階男子トイレの増設、ウォシュレット付便座の取り付けを計画していたがコロナの影響で品物が入らず次年度へ持ち越した。 |
| | ④ 病院との連携をはかる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院時には病院に情報提供を実施し、退院前には状態の聞き取りやカンファレンスに参加し、内容を職員間で情報共有した。 |
| 能力開発 | ① 特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研修に参加した職員が伝達する形で各種研修を開催した。感染症予防、排泄ケア、口腔ケア、看取り介護、認知症介護等 |
| | ② 対人援助技術を高める | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1月の全体会で対人援助技術の動画研修を実施した。研修に参加できなかった職員も動画を視聴し、職員全体で対人援助の理解を深めた。 |
| 地域 | ① 面会システムの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、オンラインでの面会や面会場所を固定し対面での面会を実施した。 |
| | ② 地域の保育園・小中学校・ボランティアとの交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、直接的な交流はできなかった。小学校からは授業の一環として、利用者への手紙をいただいた。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、ボランティアを受け入れ、生け花クラブや絵手紙クラブを実施した。職員で実施できるクラブ活動も行った。 |
| | ③ 福生会ニュースを掲載する | <ul style="list-style-type: none"> ・ 福生会ニュースを年20件掲載した。(目標:月2件以上) |
| 業務 | ① 職員の健康維持 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 腰痛で休む職員は少なくなった。引き続き福祉用具の活用や介助方法の見直しにより身体への負担軽減を図る。 |
| | ② 安定的経営を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均入院者数4.4人/日(目標:1日平均4人以内) |

<令和3年度入所者状況>

平均要介護度: 3.9

退所者数: 31名(看取り23名、病院退所8名)

待機者数: 94名

※参考: 令和2年度入所者状況

平均要介護度: 3.9

退所者数: 27名(看取り17名、病院退所10名)

待機者数: 100名

I 令和3年度の状況

週6回、日替わりの認知症予防レクリエーションメニューを決めて実施し、午前・午後のラジオ体操や湯けむり体操ラ・ドン等で体を動かすことも継続して認知機能や身体機能を維持することができた。要介護認定を受けている利用者の介護度の維持ができた。また、日常生活の中での変化や通院の状況など介護支援専門員や各事業所へ報告し、情報共有し連携を図ることができた。一方で退院後、他施設へ移られた利用者が1名、三喜苑特養に入所された利用者が1名と計2名の退居があった。

各事業所に情報提供し、入居者の確保に努め、毎月初日の満床は維持できた。（基準：初日在籍）

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|-----------------|--|
| サービス | ① サービスの質の向上（全体） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 曜日ごとに内容と場所を変えて認知症予防レクリエーションを実施し、身体機能や認知機能を維持できた。曜日によっては参加者も増え内容やレベルを検討しながら楽しみの提供にも繋がった。 ・ ミニ講座は計画どおり実施できた。（内容：リハビリ、認知症予防、防災、感染症予防、栄養 の計5回） ・ 緊急時の対応では毎月1回ナースコールの点検を行い、ケアハウスのみの避難訓練も実施するなど、利用者の意識向上に繋がった。 |
| | ② サービスの質の向上（個人） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳トレプリントや塗り絵などをされる利用者には定期的にプリントなどを提供し、認知症予防や楽しみの提供ができた。 ・ 個別外出支援を年間1人1回以上実施できた。自宅訪問や美容院、銀行、またはドライブ外出など希望に添った対応ができた。 ・ 家族にケアハウスの機関紙（年4回発行）を届け、様子をお知らせした。また利用者の近況と行事予定を毎月報告して連携を図った。 |
| 能力開発 | ① 人材育成と資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症について学習療法の資料や動画研修で学びを深めた。また、ケアハウスでの事例を都度ミーティングで検討した。 ・ レクリエーション研修に1名参加、研修内容を取り入れ実施した。 ・ 施設内研修には毎月1名以上は参加し、理解を深めた。 |
| | ② 接遇力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇についての目標を設定し、毎月のミーティングで評価と振り返りを行った。 ・ アンケートでいただいた要望はすぐに対応できた事もあったが、できなかった事は次年度に実施する。（利用者・家族へのアンケート） |
| 地域 | ① 地域・保・小・中との交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各交流会が中止となり、交流はできなかった。三朝町駅伝大会では沿道で6名の利用者が各選手を応援した。 |
| | ② 地域貢献の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ みささ村地域協議会の花いっぱい運動に参加し、利用者と一緒に季節ごとに花の手入れを行った。また、三朝町社会福祉協議会のペットボトルキャップ回収は継続して行った。 |
| 業務 | ① 安定的経営 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月、満床が維持できた。退居者があった月に次の利用者の入居ができ、安定的な経営に繋がった。 ・ 介護支援専門員や各事業所に情報提供を行い、連携を図ったことで、空室照会や申し込みがあった。 |
| | ② ホームページの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 福生会ニュースを年間36件（月平均3件）掲載し情報発信できた。（目標：月2件以上） |
| | ③ 業務改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアルの見直しを行った。 ・ ミーティング時に担当業務の確認を行い、スムーズに行事が実施できた。 |

I 令和3年度の状況

利用者数を前年度と比較すると、前年度延べ利用者数9,460人に対して、今年度延べ利用者数8,515人と945人減となった。居宅介護支援事業所への情報提供等を行い利用者増加のために努めたが、施設入所や定期的なショートステイの活用、体調不良により利用者数が減少してしまうケースが多く、実績を上げられない状況が続いている。日常生活においてはコロナ禍で行事等が中止になる中、仲間づくりや笑顔で活気のある時間を過ごすことができるよう、クラブ活動（習字、染め物）を活用して「趣味の会」を提供した。新規利用者獲得が重要であり、そのためにも情報発信や多様なサービスメニューを取り入れ魅力ある事業所にしていく必要がある。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|------------------|--|
| サービス | ① 利用者に応じた機能訓練の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 運動機能実施者の介護度維持者数5名、評価基準値50%で、事業所評価加算目標は達成できなかった。（目標：70%） 機能訓練を月平均442名実施した。（1日平均19名） 体力測定2回、延べ55名を実施し、測定値を見える化し運動意欲の向上に繋がった。 |
| | ② 能力や好みに応じた活動の提供 | <ul style="list-style-type: none"> 感染対策にて密になる活動を中止し、脳トレの種類を増やし、内容の充実、クラブ活動（習字、染め物）を活用し仲間づくりや楽しみを提供した。 専門職による集団体操を実施し、運動の動機付けを行った。 学習療法は10月より希望者がなく実施できていない。 |
| | ③ 家族・各事業所との連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で事業所訪問は控え、電話や郵送等により情報共有に努めた。毎月のモニタリング提出が遅れてしまうことがあった。 サービス担当者会議、地域ケア会議には、すべて出席し、家族・各事業所へ状況報告を行った。 家族アンケートを12月に実施した。概ね「良い」との評価を得ている。 |
| 能力開発 | ① スキルアップと人材育成 | <ul style="list-style-type: none"> 施設外研修は感染予防対策で参加できなかったが、施設内研修や通所事業所勉強会に参加（毎回7～9名参加）し、一人ひとりが振り返り、日々のケアに活かしている。 接遇目標に対して毎月自己評価し日々の業務で意識することができた。毎月評価する事で心掛けが継続できている。 認知症介護基礎研修を受講し修了した。（1名） |
| | ② 感染症対策の正しい知識と実践 | <ul style="list-style-type: none"> 苑内、共同使用物の消毒、運転中の換気等徹底し感染予防に努めた。 発症時の対応についてのシミュレーション訓練を行った。 |
| 地域 | ① 地域貢献と地域への発信 | <ul style="list-style-type: none"> 出前レク（介護教室）を年間6回実施し、地域住民延べ53名の参加者があった。毎年楽しみにしていると地域住民より高評価を得ている。地域行事は中止となる。 ホームページ福生会ニュースに行事や日常生活の様子等を掲載し、情報発信を行った。（8件/年） |
| 業務 | ① 安定的な経営 | <ul style="list-style-type: none"> 平均稼働率70%、利用者実績介護保険利用者27.5名/日（要介護21.5名/日（目標25名/日）要支援6.0名/日）、新規利用者28名/年、利用終了者27名/年 認知症Ⅲaの方が2割以上となり、来年度は認知症加算を取得できる。 デイ新聞を年3回発行し、空き情報を掲載し各事業所へ配付した。 |
| | ② 業務改善 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者予定表の作成等、記録ソフトを活用することにより記録時間の短縮へと繋がった。 業務改善案について話し合い、改善できることは見直しを図った。 |
| | ③ 職員の健康維持及び福利厚生 | <ul style="list-style-type: none"> 車両事故が3件あり、個人運転指導を行った。（指導：総務課）毎朝のミーティングにて啓発を行っている。労働災害は0件であった。 全職員が年次有給休暇を年5日以上取得した。 |

注1 運動機能実施者 = 要支援事業対象者で「運動器機能向上サービス」をうけている利用者

注2 評価基準値70% = 「事業所評価加算」が算定できる基準

令和3年度 事業所別事業報告

事業所 【 短期入所生活介護事業所 】

I 令和3年度の状況

在宅生活を続けるためのサービスであるが、入院をきっかけに自宅での生活が難しくなり、特養入所ができるまでの期間、ショートステイを希望される人が増えている。定期的にショートステイを利用される利用者の中には、インスリン注射、褥瘡処置、胃ろうによる栄養注入が必要な方もあった。また、週末に定期的に利用される方も増え、土曜日に入所が重なり対応に追われることが多かった。農繁期や冬期間等、期間を区切った利用をされる方もあった。新規利用者受け入れの際は、事前の情報収集や利用中の様子の報告等、担当介護支援専門員と連携をはかり、定期的な利用につながるよう努めた。

長期利用者と定期利用者の受け入れ人数を調整し、各関係機関と情報交換を行いながら利用者を確保し、昨年度より利用人数が増加した。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|----------------------------------|---|
| サービス | ① 機能訓練の計画作成、他医療機関等の連携とアセスメント等の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 対象者2名。個別機能訓練計画を作成し、居宅訪問や評価を行っていたが職員配置（専任1名）が難しくなり、9月から加算算定を中止した。 ケアプランにそって、短期入所利用中の機能訓練を実施し、内容や評価を担当の介護支援専門員へ報告した。 |
| | ② 認知症利用者への適切なサービス提供 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症日常生活自立度Ⅲ以上の受け入れが、6月から50%以下になったため、認知症専門ケア加算は8月から算定できなくなった。 月1回認知症ケア会議を開催した。利用する部屋が変わっても同じ対応ができるよう、情報共有を行った。 学習療法（対象者1名。ショートステイ利用時実施）については、利用者が特養入所（9月）となり、以降は行っていない。（希望者なし） |
| | ③ 利用者のニーズに合った細かい対応と業務の見直し | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の最新の状況の把握、在宅と同じような環境の提供に努めた。 苦情が1件あり、対応策を徹底し、改善した。 |
| 能力開発 | ① 認知症利用者への対応力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 特養ミーティング内で研修を実施した。 施設内での研修に参加した。 |
| 地域 | ① 居宅ケアマネジャーとの連携 | <ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議へ出席し、情報交換を行った。（出席率96%） 利用者の状態変化等、担当介護支援専門員へ報告した。 |
| 業務 | ① 利用者確保 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者実績 16.4人/日 |
| | ② 夜勤職員配置加算の算定要件確保 | <ul style="list-style-type: none"> 認定特定医行為業務従事者（介護士の吸引、胃ろうの対応）を毎日1名夜勤帯に配置した。 |

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 差 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 利用人数 | 5,396 | 6,002 | 606 |
| 平均要介護度 | 3.6 | 3.1 | △ 0.5 |
| 1日平均人数（人） | 14.8 | 16.4 | 1.6 |

令和3年度 事業所別事業報告
事業所 【 グループホーム 仁の里 】

I 令和3年度の状況

当グループホームの利用者も高齢になるにつれて医療依存度の増加が見込まれ、筋力の低下による事故のリスク、病気による入院のリスクが高まってきている。日々利用者の体調の変化に気を配り、病気の早期発見、対応が必要な年であった。

またコロナ禍に伴い、未だに外食、面会の自粛により家族、利用者に不安を強いている事もあり、電話、リモート、窓越し面会等活用し、出来るだけ利用者の様子がわかるように心掛けた。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|-------------------------|--|
| サービス | ① 利用者のニーズに合わせた個別支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 洗濯干し、手芸、調理活動など経験や能力を活かした活動を実施した。(毎日) 今年度畑の返却を行った。(作業できる利用者がいないため) |
| | ② 心身機能を維持し、活力のある生活を送る | <ul style="list-style-type: none"> リハビリ、脳トレ等ほぼ毎日実施できた。 毎月行事食の提供を行った。 口腔ケア、健康観察については毎日実施できた。 |
| | ③ 認知症状に対する適切な対応・安全管理の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> ミーティング時に、都度症状の確認を行った。 同様の事故が続いた。(薬の飲み忘れなど)再度内服管理から服用方法について見直し、改善した。 |
| 能力開発 | ① 学ぶ意識・資質の向上を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ミーティング時に各利用者対応方法について確認 連絡ノートやミーティングを活用し、ケア内容の統一を行った。 年間3名研修参加した。(オンライン) |
| | ② 認知症に関わる資格取得 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症介護実践者研修1名受講した。(修了) ビデオを活用した伝達研修はできなかった。 |
| 地域 | ① 運営推進会議の開催 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に伴い中止もあったが、年間3回開催した。 |
| | ② 防災訓練の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を年間2回実施した。(倉吉消防署、三朝町消防団の立ち合いなし) |
| | ③ 地域に貢献する | <ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ(わらわあ会)はコロナ禍もあり、年間6回開催した。 年末に認知症カフェ(わらわあ会)兼ねて正月飾り作りを行った。わらわあ会固定の方除き地域から2名の参加があった。 |
| | ④ 地域を理解し信頼関係を築く | <ul style="list-style-type: none"> 奉仕作業に参加。それ以外は参加できていない。(予定:運動会見学、地域の祭り・とんどさん参加等) |
| 業務 | ① 働きがいのある環境を整える | <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇取得基準を達成した。(年5日以上の有給休暇と連休の取得) 残業時は事前申請を徹底した。 |
| | ② 安定的な経営を目指す | <ul style="list-style-type: none"> 年間入院者5名(延べ日数:149日) 生活機能向上訓練加算Ⅱを取得した。 |
| | ③ 接遇力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 接遇研修には参加できていない。サービス向上委員会と連携して個人評価表への評価を行った。 |

I 令和3年度の状況

今年度は、新型コロナウイルス感染症対応を要する状況が2年目となった。コロナ禍で保育運営が厳しい中ではあったが、子ども達の健全な発達の保障を心がけ、行事が実施できる状況づくりを検討し、保護者に子ども達の成長した姿を見てもらうことが出来た。また園全体で新型コロナウイルス感染症対策に取り組むことにより、子ども達の適応力（マスク着用・換気・手洗い・消毒・検温・黙食など）の意識が高まった。今年度は特に英会話専任の職員を配置し、日常の挨拶など英語により親しみをもつことが出来た。地域貢献と園児獲得の為、オープンデーを年5回計画（4回実施）したり、グランドデザインを作成し、地域に配布することで本園をアピールすることが出来た。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|--------------------|--|
| サービス | ① 質の高い保育の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個の見取りと適切な保育に努め、年齢到達目標を見据えた保育の実践に取り組んだ。 ・ 自然体験活動・運動遊びの年間計画に基づき、園全体で取り組むことで効果を上げた。 ・ アンケートによる保護者満足度は96.5%と高い数値であった。 |
| | ② 経営方針の明確化と特色づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊富な自然体験活動をベースとして （知）英会話教室の充実により、日常的に英語に親しむことができ、英語力とコミュニケーション能力の育成を図った。 ・ （徳）論語、坐禅、お茶はコロナ禍により、講師を招いての実践がなかなかできなかったが、保育士と一緒に実施することで、豊かな心の育成を図った。 ・ （体）資格者による運動の指導を通して、運動能力の向上と健康的な体づくりを行った。 |
| | ③ ネット活用と積極的な情報提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 園だよりやクラスだより、園独自のホームページで園児の様子や活動を発信するとともに、まちコミ（メール）で細かな情報を発信した。 ・ 論語、食育、絵本通信を年3回発行し、取り組みの様子を伝えた。 |
| 能力開発 | ① 職員の資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価に基づき課題を見つけ、改善に努めた。 ・ 他園との年齢別検討会を実施し、職員の資質向上を図った。 |
| | ② 研修への参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援研修に2名参加した（オンライン研修） ・ キャリアアップ研修（6名）など専門分野の研修を受講した。（eラーニング研修） |
| | ③ 外部への公開 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開保育を実施し、県の担当課、町の教育委員会、他園保育士の助言を受けたり、町内の他園の公開保育に参加した。 |
| 地域 | ① 他園・小・中学校との交流との交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の園児との交流会を（年長児、竹田保育園）各2回実施した。 ・ 三朝小1年生とのプール交流、5年生との交流を2回計画したが1回の実施となった。 ・ 中学生の職場体験（トライワーク）で9人受け入れた。 |
| | ② 福祉施設・地域との交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 老人福祉施設訪問・交流はコロナ対応のため実施できなかった。 |
| | ③ 地域社会への貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小、中学校の夏休みボランティア活動を受け入れた。（10名） ・ 地域での作品展示など積極的に協力した。（お雛様展示、食育の展示など） ・ オープンデー（未就園児対象）は、コロナ対応に苦慮したが5回計画し4回実施した。 |
| 業務 | ① 職員間の協力体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週連絡会を30分程度行い、内容を紙面にして共通理解につなげた。 ・ 各クラス、未満児、以上児担当など小規模のミーティングを行い、職員の意味疎通を図り、共通意識を持って保育にあたることができた。 |
| | ② 保護者との信頼関係づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の為、クラス懇談会やクラス会が出来ない事が多かったが年長児クラスのみ個人懇談1回実施。 ・ 必要に応じて個別に面談を実施し、保護者支援を行った。 |
| | ③ 安定的な経営 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員間で協力体制をとり、0歳児を最大14名受け入れた。 ・ ネット配信活用によるペーパーレス化を推進した反面、英会話やグランドデザインを充実したため、カラーコピーの量が増えてしまった。 |

令和3年度 事業所別事業報告
事業所 【 認知症対応型通所介護事業所 】

I 令和3年度の状況

利用者の入院、特養入所、重度化に伴い9月より2名利用者減となる。その後も募集はかけていたが対象がなく、2月まで1名体制で運営を行った。新たな利用者も増えたことから、在宅生活の支援が出来るよう、リハビリ、認知症ケアに心掛けた。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|-----------------------|--|
| サービス | ① 利用者のニーズに合わせた個別支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 手芸や調理活動など、利用者の経験を活かしたケアを行った。 新型コロナウイルス感染状況をみながら、外出行事を行った。（外食は中止） |
| | ② 心身機能を維持し、活力のある生活を送る | <ul style="list-style-type: none"> 体調変化に留意し対応を行った。 デイ職員を中心に苑内外の散歩を行った。 毎日体操等行い、体を動かして頂いた。 |
| | ③ 各事業所・ご家族との信頼関係を築く | <ul style="list-style-type: none"> 日々送迎時を通して、家族との連携を図った。 担当者会議には都度参加した。 |
| 能力開発 | ① 学ぶ意識・資質の向上を目指す | <ul style="list-style-type: none"> グループホームの連絡ノートを活用し、デイ職員だけでなく他の職員にもケア内容の周知を図った。 研究発表を通じて、レクの提供方法を変更した。 |
| | ② 認知症に関わる資格取得 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する新たな資格取得はなかった。 認知症研修に関連する資料を回覧し、学習した。 |
| 地域 | ① 地域とのつながりを大切にする | <ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ（わらわあ会）に参加し、正月飾りを作った。 |
| | ② 防災訓練の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を年間2回実施した。（倉吉消防署、三朝町消防団の立ち合いなし） |
| | ③ 地域を理解し信頼関係を築く | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に伴い行事への参加はできなかった。 |
| 業務 | ① 働きがいのある環境を整える | <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇取得基準を達成した。（年5日以上の有休取得） 腰痛者なし。 |
| | ② 安定的な経営を目指す | <ul style="list-style-type: none"> 9月に利用者2名減少した。（特養入所、入院等）新規利用者について、社協や居宅介護支援事業所等に相談したが対象者がなく、2月ようやく新規利用者（2名）の獲得ができた。 利用者数延べ21,75名/月と大幅に減少した。（目標：月45名以上） |
| | ③ 接遇力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 接遇研修には参加できていない。サービス向上委員会と連携して個人評価表への評価を行った。 |

令和3年度 事業所別事業報告

事業所 【 三喜苑西郷 】

I 令和3年度の状況

近年、家庭の事情等により重度の方は施設系サービスを利用される方が多く、通所介護を利用されるのは要介護度の低い方が増えている。特に当施設はハード面において重度の方の受け入れが難しく、また対象地域が広く利用者の獲得が容易ではない。今後、要介護の利用者の獲得、及び稼働率アップを目指すために、各関係機関との更なる信頼関係の構築に努めていく。また現在の利用者に継続利用していただくために、満足度を上げるサービスの提供、機能訓練による身体機能の維持、体調の把握と早期発見による健康管理によって在宅生活の継続を支援していく。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|--------------------|---|
| サービス | ① 利用者に応じた機能訓練の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 機能訓練計画書延べ 127名作成。訓練実施者数延べ2, 837名。評価者数延べ 353名。 毎日午前と午後に集団体操、生活リハビリ体操を実施した。 移乗介助等の介助が必要な方に対してスライディングボードやターンテーブルを活用。介助者の腰痛予防にも繋がった。 |
| | ② 能力や好みに応じた活動の提供 | <ul style="list-style-type: none"> 興味関心チェックリスト作成し、個人の好みに合わせた個別活動の充実を図った。(読書、塗り絵、パズル、作品作り、囲碁、将棋、散歩等) コロナ感染症対策のため、外出行事やボランティアの来苑行事が実施出来ず、職員でできる催しや手作り昼食、短時間・少人数でのドライブ等で工夫しながら事業を行った。 |
| | ③ 各事業所との連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議延べ39件参加。照会・情報提供24件。昨年度同様コロナ感染症予防のため、開催が中止か少人数での実施となり会議件数は少なかったが、照会や情報提供を行い連携強化に努めた。 毎月翌月の1日から2日までには実績報告を行った。各事業所へのモニタリング評価も遅れなく提出した。 各事業所の訪問は、コロナ感染症のため最低限での実施だったが、細めな報告・連絡・相談は即時実施した。年5回広報誌を発行し、空き情報も伝え、新規利用者の獲得に努めた。 |
| 能力開発 | ① 資質向上と人材育成 | <ul style="list-style-type: none"> 「接遇」「認知症」「ストレスマネジメント」「アンガーマネジメント」等について、年10回通所ミーティング内で勉強会を実施し、その後のケアに活かせる具体例も挙げ取り組んだ。 全体会は2名が2回不参加だったが、その後は毎回全員参加。当日不参加でも後日動画研修等で学んでいる。施設内研修には8割以上の職員が参加。施設外研修はレクリエーション研修に2回参加。その他オンラインでの研修に3名が参加した。 年2回主任・リーダーによる個人面談を実施し個別指導を行った。コーチング技術を再確認し指導を行った。 |
| | ② サービス向上、利用満足度を上げる | <ul style="list-style-type: none"> 利用者、家族向けアンケートを11月～12月に実施。12月に集計し、1月に報告を行った。良い以上98%。(リハビリについては86%) サービス向上委員会を中心に、毎月接遇チェックを実施。特に言葉遣いや態度についての評価を行い、改善を図った。一部の職員に対しての個人指導も行った。 利用者の変化(体調など)の早期発見に努め、迅速な報告を行った。事故発生件数は4件、そのうち介護中の事故は1件だった。対策実施後同様の事故は発生していない。 |
| 地域 | ① 地域貢献と地域への発信 | <ul style="list-style-type: none"> 4月と10月の奉仕作業とサラバンダ(倉吉市西郷地区総合文化祭)は、コロナ感染症予防と悪天候のため中止となった。 福生会ニュースを毎月掲載した。(計13件/月) 高校生のボランティア等の予定はあったが、コロナ感染症の影響で全て中止となった。 |
| 業務 | ① 安定的な経営 | <ul style="list-style-type: none"> 要介護者実績者数：平均7.1名/日 収入平均1,935,740円/月 年間延べ利用者数3,391人 平均稼働率66.1%/月 キャンセル発生数：平均9.22人/月 科学的介護推進体制加算、ADL維持等加算、個別機能訓練加算(Ⅰ)イ、個別機能訓練加算(Ⅱ)、入浴介助加算(Ⅰ)、中重度者ケア体制加算、サービス提供体制強化加算(Ⅰ)、介護職員処遇改善加算(Ⅰ)、特定処遇改善加算(Ⅰ)、口腔・栄養スクリーニング加算(Ⅱ)を取得。栄養アセスメント加算取得予定だったが、取得できず。 |
| | ② 業務改善 | <ul style="list-style-type: none"> 各利用者のアセスメントや個人情報を入力。各報告書や計画書等の進捗情報や稼働率の統計等のデータを活用し、業務削減にも繋がった。 業務マニュアルの検討、作成を行った。来年度も継続して検討、作成していく。 年度初めに担当に業務を分担した。毎月業務が遂行できているか確認し、担当によって遅れが出る場合は、上司がフォローした。 |
| | ③ 職員の健康維持及び福利厚生 | <ul style="list-style-type: none"> 職員全員が年5日以上年次有給休暇を取得できた。 会議以外の残業はほとんどなし。上限規制を遵守できた。 労働災害は無し。送迎中の車輛事故1件あり。 |

注1 ストレスマネジメント = ストレスとの上手な付き合い方を考え、適切な対処方法をしていくこと。

注2 アンガーマネジメント = 「怒り」を上手にコントロールすること。

I 令和3年度の状況

令和3年度は介護報酬の改定が行われ、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、引き続き地域包括ケアシステムの推進を図ることに加え、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中、「感染症や災害への対応力強化」を方針のひとつとして追加された。実際、新型コロナウイルス感染拡大状況や災害発生状況に合わせ、居宅介護支援事業所・介護支援専門員として、これまでとは違った状況下においても必要な介護サービスを継続的に提供できる対応、調整が求められることが多かった。また、介護支援専門員や、介護支援専門員が行うケアマネジメントは、自立支援、重度化防止という視点に加え、主治医や医療機関との更なる連携強化が求められ、健康状態を把握し、利用者のケアプランに位置付けることも重要視された。厚生労働省は、地域共生社会の実現も推し進めており、引き続き利用者の住む地域に目を向け地域の力を活用することにも努めた。居宅介護支援事業所、介護支援専門員の業務は増えつつあり、業務の整理や効率化を行い、働き方改革にも努めた。

II 評価

| 項目 | 重点目標 | 評価 |
|------|--|---|
| サービス | ① 利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う | <ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントシートを活用し利用者の生活状況の十分な把握と課題分析を行い、ケアプランを作成することに努めた。 ・ 新型コロナウイルス感染予防の為、他部署との意見交換会は開催できなかった。日常の連絡や担当者会議等で連携に努めた。 |
| | ② 医療との連携を強化し、日々の健康管理と入退院支援の充実を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要時には診察に同席し、医師等に利用者の情報提供を行い医師から情報提供を受けてケアプランに位置付けた。 ・ 入院した全ての利用者について入院時の情報提供を行い、退院時の状況確認と必要な利用者はプラン変更で調整を行った。 |
| 能力開発 | ① 個々の希望や能力に合わせた目標を持ち、達成を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染状況により、施設内・他事業所との事例検討会は開催せず、部署内での開催とした。 ・ 介護支援専門員個々の目標を設定し、目標に合わせた学びの計画を立て、各自または部署内全員で外部研修会や勉強会に参加した。復命書の回覧や研修後に部署内で振り返りを行い学びを深めた。 |
| 地域 | ① 利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域ができる支援を知り、つながりをつくる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活を支援する地域（特に三朝町）のサービスを知り、利用者の支援に活用し、見守り体制の強化を図った。 (利用者個々の状況に応じ、民生児童委員や愛の輪協力員との連携、緊急キットの再確認、雪かきボランティアの調整等) |
| 業務 | ① 利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護を96件/月、要支援・事業対象者を18件/月維持）※要支援・事業対象者は1件=0.5件で計算 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理表を用いて、適切なケアマネジメント実施のための管理や調整を各介護支援専門員、管理者が確認した。 ・ 法令の理解を深めるため勉強会を行ったり、保険者によるケアプラン点検を通じ、個人として、事業所として日々のケアマネジメントの振り返りを行った。 ・ 月平均要介護77件、要支援・事業対象者19件請求（1月から職員体制が3人から2人に変更） |
| | ② 働きやすい職場環境をつくる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護支援専門員、居宅介護支援事業所の業務として義務化されたことが増え、定時で退社することはなかなかできなかったが、業務内容や書式の検討等、適宜見直しや新たな取り組みを行い、早く退社できる日が増えるように努めた。 |

注 「地域共生社会」 = 制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超越して、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超越して『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会